

学校名	新座市立第四中学校
実施日	令和 4年1月14日

<記入の仕方>

○「自己評価」及び「学校関係者評価」の欄には、A～Dを記入してください。

○「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるかを明確にしてください。

評価項目「独自」

No.	質 問 項 目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
1	学校は、前年度の取組を踏襲するだけでなく、時代の変遷に応じた教育内容の見直しを図っている	A	教員がチームとして動き、生徒が自分の良さを発揮できる場を作り上げている。コロナ禍において、ふさわしい授業形態を模索する中であって、教員同士がアイデアを共有しやすい職場の雰囲気を醸成していった。踏襲に拠る取組が功を奏さない状況が続いたため、教育活動全般にわたり、刷新が積極的に行われた。一方で、ゆとりをもって取り組めるよう、業務等の精選をさらに実施する必要がある。	A	コロナ感染が懸念される中、様々な工夫をしながら、教育活動をしていて、努力なさっていると感じる。また、新体制による活気も感じる。ICT活用など、教育を取り巻く環境もコロナ禍を契機に大きく変化している。こういう中であって、時代の変遷に応じた教育内容の見直しや働き方改革に取り組んでいることは、高く評価できる。その一方で、社会が大きく変化するからこそ、子供たち一人一人を大切にする従来からの教育は継続いただきたい。
2	学校は、ICTの活用などにより、読解力を高め、資質・能力を身に付けられるような授業改善に、学校全体で取り組んでいる。	B	クロームブック導入を契機に、ICTの活用が飛躍的に進んだ。動画や写真を利用した授業が増えたことによって、生徒の理解度も上がり、次代を担う子どもたちが必要とする資質・能力を身に付けることにつながっている。読解力の育成については、教科毎に取り組んでいるが、成果を判断しづらい状況にある。教科を横断した共通の方策や判断指標の設定が必要である。	A	学校でのICT活用は不可欠である。分散登校でのオンライン授業の実施など、新たな取組にチャレンジしている様子は高く評価できる。一人一台のPC導入により、自ら学ぶ材料として、大きな成果があったと思う。使いこなせていない生徒、使うなかで浮かび上がる課題への対応等に留意いただければありがたい。このように個別に最適化した学びの土台が整備されつつある一方、読解力の強化に不安を感じるのとは同感である。読解力の育成は、国際的な学力調査でも日本の教育課題であるため、今後の親展に期待する。
3	学校は、さまざまな課題や悩みを抱える生徒一人一人や保護者に寄り添い、柔軟な発想で最善策を講じている	B	生徒は、総じて落ち着いた雰囲気の中で授業等の教育活動に取り組んでいる。生徒が抱える課題を、学年や学校全体で共有し、組織的な対応を図ることができている。一方で、生徒の悩みは多様化、深刻化しており、教職員だけでは対応が難しい状況にあり、関係機関と連携している。生徒を健全に育てるためには、家庭教育に対する支援は不可欠であり、さらなる連携を推進しなければならない。	B	元来、生徒の悩みは、なかなか見えにくいという特性があることに加え、感染症防止を配慮すると個人に寄り添いにくい状況がうかがえる。また、生徒が抱える問題が、複雑化・多様化し、対応の難しさが増しているように見える。こうした中であって、教職員の皆様は早期の解決がむずかしい課題に対しても、積極的に働きかけ、努力をされている。関係諸機関との連携は必須であると捉える。また、授業を拝見すると落ち着いた雰囲気がよくわかる。今年度も引き続き、生徒が落ち着いて学校生活を送られていることに対し、教職員の皆様に敬意を表する。

評価項目「組織運営」

No.	質 問 項 目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
4	学校は校務分掌や主任制を適切に機能させるなど、組織的な運営・責任体制を整備している。	B	主任層を中心に責任をもち、校務を推進している。また、中心的な役割を担う職員が積極的に声をかけることで、職員間でOJTが自然発生する機会が多くあった。一方で、分掌内で役割を均等に分担できておらず、主任のみに仕事が偏る傾向もある。次年度に向けた引継資料の作成を計画的に行うことで、見通しを持たせ、仕事内容の精選を図らせている。	B	学校組織を円滑に機能させることは困難なことであるが、職員間でOJTの体制が自然と行われる職場の雰囲気は素晴らしい。また、分掌により仕事量に違いはあるでしょうが、協力体制ができているように感じる。主任への仕事の偏りの解消をはじめ、働き方改革の推進が求められ中であって、恙なく校務を進めるとともに、次代を担う教職員を育てることは大変なことであるが、引き続き努力いただきたい。
5	学校は経営方針を具現化するために、学校評価の実施等を通じて、PDCAサイクルに基づく学校経営を行っている。	B	校長が掲げる目指す学校像に連鎖させながら、各自が目標を立て、実践を重ねている。学校運営協議会、保護者、地域からの意見等を参考にしながら、定期的に計画の見直し、改善を図るようにしている。	A	目指す学校像の実現に向けて、組織的な対応をしている点は、高く評価できる。PDCAサイクルを活用し、常に計画を見直し改善を図る、風通しのよい組織作りも評価できる(考え方や行動が目標に向かい一致しているように感じる)。地域から学校運営に協力しにくいため残念に思うことがある。
6	学校は事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう。危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	B	問題行動、安全教育、教育相談、保健指導、給食指導等を網羅した「校務必携マニュアル」を年度の初めに、全教職員に配布し、その内容を周知し、取りこぼさないようにしている。また、避難訓練や下校指導など、職員が一丸となって取り組んでいる。不審者対応を想定した訓練の機会が持てていないことが課題である。	B	不審者対応は、学校だけでは難しい面もあり、地域との連携も必要なことだと思う。危機管理が多様化して難しくなる中で、小規模でもいいので、年1回は実地訓練することを望む。危機管理や、緊急事態に対して、職員が一丸になって取り組んでいるところは素晴らしい。

評価項目「学力向上」

No.	質 問 項 目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
7	学校は、児童生徒が学習内容の理解を深めることができるよう、学習ルールを定め、それに基づいた授業を展開している。	B	学習のルールは定着しており、授業自体はどのクラスもどの学年も落ち着いて運営されている。各教科でもルールを定め授業を行っているが、理解が深まっているのかは検証すべき課題であり、内容や時間配分などを工夫していく必要がある。研修主任を中心に、四中アウトラインの見直しを行っている。	A	1年間のコロナ禍で培ってきた経験・知見を生かして取り組まれていると感じる。授業規律の確保は、生徒の学力向上の重要な要素であり、今後も引き続き、落ち着いて学習できる授業づくりを期待している。
8	学校は、各教科の指導において言語活動を重視した授業を展開し、児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成に努めている。	A	発表や話し合い活動の時間を取り入れ、生徒自身に考えさせる活動を行っている。ICTの活用が進み、従来の授業よりも各教科で生徒が自らの考えを伝えやすい環境に変化しつつある。思考力、判断力、表現力は、以前の授業の方法よりも現在の方が重視されてきている。	A	生徒たちは授業に意欲的に取り組んでいる様子である。コロナ禍で対話的な授業の実施が難しい状況下で、ICTを活用して、いかに生徒の深い学びを引き出すのか、そうした授業改善に取り組まれていることに敬意を表する。
9	学校は学習指導要領や県編成要領、新座市指導の手引きに基づき、児童生徒の発達の段階や学力、能力に即した学習指導を行っている。	B	学習指導要領等を踏まえた年間指導計画を作成し、それに即した学習指導を行っているが、発達段階や学力の個人差が大きい。個別最適な学びの実現等、新しい学習指導要領の趣旨を具現化した授業の在り方について、抜本的な改善を試みていく必要がある。	B	努力していると感じる。新しい学習指導要領の目指すところが簡単ではないこと、先生方が対応に苦慮していることは理解できる。趣旨の具現化に向けて、生徒一人一人への支援が大切であると考えている。
10	学校は、英語(外国語・外国語活動)の授業の充実するなど、グローバル化に対応できる児童生徒の育成(国際理解教育の推進)に努めている。	B	国際理解教育は英語科のみならず、全教育活動を通じて行うことが望まれる。今年度は、ICTを活用し、他県の生徒とコミュニケーションを図る授業も行われ、教室の中だけにとらわれない授業を展開することができた。3学年では国際理解教育をテーマに14時間の授業を総合的な学習で行い、国連UNHCR協会やNPO等と連携し、リモート授業なども含めて、充実させることができた。今後も、こうした取組を継続・発展させていきたい。	A	ICTを活用した他県の生徒との交流授業など、面白い試みなのでどんどん新しいことに取り組んでいただきたい。学校行事、授業、部活動など、新たなグローバル化に向けた特色ある取組を一層充実させてほしい。

評価項目「豊かな心の育成」

No.2

No.	質 問 項 目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
11	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつをしたり、「です、ます」をつけるなど、場に応じた言葉遣いができるよう指導している。	B	教職員は、率先垂範を旨として、あいさつの大切さなどに触れて指導している。生活委員会における「挨拶運動」等の取組も継続して行っている。校外では地域の方に、ややもすれば暴言などもあるので、社会の中で実践できるように指導していく必要を感じる。TPOをわきまえられる力を育成していく。	A	家の近くで、四中生から元気よく挨拶をしてもらうなど、個人差はありますが、大変うれしく思う。日頃の先生方のご指導の結果であると考えている。基本的生活習慣の確立は、是非、ご家庭との協力体制を維持しながら進めてほしい。場に応じた対応ができるように今後とも指導をお願いしたい。
12	学校は、児童生徒がいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さを努力を認め合って学校生活を送れるような環境を整備している。	B	生徒一人ひとりが認められる存在として自己肯定感を高めさせ、いじめや意地悪をなくしていくことを目指している。一方で、それらの取組が不登校傾向の生徒数を減少させるまでには至っていないのが現状である。個人の問題もあるのだろうが、学級作りや他の面からも改善点を模索している。生徒による「主任会議」を定期的に行い、良い点や課題点を自分達で考えたり、お互いを評価する場面を設定している。道徳の授業による道徳的な心情の育成の他に、特別活動等を利用したソーシャルスキルトレーニング必要性などを感じる。	B	いじめ等の実態は発見しにくいところがあるだろうが、生徒が安心して登校できるように先生方が努力されていることは評価できる。コロナ禍において、生徒の心理的負担も大きいと思われる。近年のいじめはネット上など、大人からは見えにくいところで行われていることもあるので、少しの変化も見逃さないように、職員の連携をお願いしたい。不登校傾向の実態も複雑化していると思うので、地域からも協力できることはないのか検討したい。
13	学校は教職員自らが手本となり、児童生徒に対して規律意識を高める指導を行っている。	B	教職員は率先垂範で生徒に接している。言葉遣い、服装等は管理職からの注意喚起もあり、多くの職員が意識している。生徒との距離感を適切に保ち、規範意識を高める指導を行っている。	A	四中教職員の行動は生徒のお手本になっていると感じる。生徒も社会の一員であるという意識を持たせることは大事なことである。人間としては対等でも、教師が生徒との距離感をうまく保つということは簡単ではないが、重要なことである。生徒の鑑として、今後も率先して、模範となってくれることを望む。

評価項目「健康・体力の向上」

No.	質 問 項 目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、体育や部活動・休み時間などにおいて意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。	B	休み時間に、室内で過ごす生徒が多い傾向がある。昼休みにボール等を貸し出したり、授業で運動量が確保されている一方で、コロナ禍で体育的活動の制限もあり、今まで以上にというのは難しくなっているのが現状である。行事や授業の進め方、部活動の在り方等も含め、生徒の体力向上に繋がる具体的な手立てを検討していく必要がある。また、体育の授業では、撮影した動画を活用して、技を改善するなどの工夫があり、生徒が意欲的に取り組んでいる。	A	コロナ禍での体育の授業は制限があり大変であったと推察する。昼休みに校庭で遊んでいる生徒たちは大変微笑ましい。校内入り口付近の掲示物から、体力向上に努めていることがわかる。行動制限によるストレスと体力低下が心配であるが、それに対して意欲的な取組を考えていってほしい。
15	学校は、食に関する意識を高める食育に取り組むなど、計画的に健康教育を推進している。	B	給食の時間において、放送される「給食室からの連絡」には、生徒の興味を引く内容を取り入れている。食文化を豊かに享受させることを考え、食育を推進している。今後は、給食室で行われる作業の様子などを生徒会集会で紹介して、「食品ロス」等の今日的な食課題について、自分事として捉えさせる機会を設ける必要がある。	A	献立への工夫がすばらしい。生徒たちの発育をささえている、と感じる。食育の重要性が叫ばれているが、その実践は簡単ではない。その点で、四中で行われている内容は非常に参考になる。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

No.	質 問 項 目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
16	学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設け、学校に寄せられた具体的な要望や意見を把握し、適切に対応している。	B	地域の方からの意見に対しては迅速に対応できるように努力している。アンケートなどを活用し、要望などを取り入れる機会としていく。また、学校の実情を説明する機会をなるべく多く設けることで要望を反映させられるようにしていく。	A	足を運ぶ機会は減少したが、学校は意見を言いやすいよう開かれており、地域との関わりを大切にしていると感じる。ホームページに写真がふんだんに取り入れられており、見る人（読む人）によく訴えかけるつくりになっている。活動の様子がよく伝わってくる。また、アンケートを実施し、すぐにフィードバックすることは学校の信頼にもつながることなので、今後も取り組んでほしい。
17	学校は、学校だよりやホームページなどで、教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に情報提供している。	A	ホームページを更新し、定期的な学校だよりによって教育活動の様子を伝えてきているが、「学校の様子がわからない」という保護者、地域の声もあるので、さらに工夫を重ねる必要がある。インターネットを活用した情報提供・情報共有の方法をさらに模索していきたい。	A	HPや「四中だより」がしっかり構成されていて、日々の学校の様子がよく分かる。保護者だけではなく、地域の方にも情報を発信しているところがすばらしい。反面、ほかに手段がないため、しっかりとした情報発信とはなっていない現状も感じられる。コロナ禍の現状では、地域との連携等は希薄になるのは仕方のないことだとも思う。
18	学校は、学校応援団組織を活性化させるとともに、保護者や地域と連携して声かけ運動、美化活動、不審者対策など、計画的に実施している。	B	スクールメール等を活用し、不審者情報等を迅速に伝えられるようにしている。不審者侵入設定の避難訓練を実施する必要がある。また、教員が学校応援団の活動をあまり把握していない現状があるので、応援を要する業務・取組の抽出に関与させるなどして、当事者意識を高揚させていきたい。	B	地域・保護者との協力関係を大切にしていると感じる。四中のPTAは一人一役という形をとっているため、学校応援団としての活動はあまりないが、学校応援団として何かできることはないか、検討したい。危機管理の項目にもあるが、形式的な避難訓練ではなく、実態に応じた考え方は素晴らしい。多くの方の連携や協力の下、益々の四中の発展を期待している。声かけ運動は現在、実施していないので、項目から削除するべきである。